

I 2017年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2017年度大学評価結果総評】

デザイン工学部は、2016年度大学評価委員会による学部運営全般に対する高い評価に対して、満足することなく、近年導入された新規の取り組みに対する検証および改善を継続的に行っていることは高く評価できる。教育課程および学習成果に関しては、学習達成度自己評価システムの導入と改良を計画し、またグローバル化に向けた海外英語研修システムの有効性を実証しており、ソフト面での拡充に対する努力は特に評価に値するものと考えられる。今後はこれらの新たな試みに対して、その効果と持続可能性を学生と教員の双方の立場から総合的に検証していくことが必要と考える。また、教育学習施設などのハード面においても、その拡充が難しい状況の中で現行施設の効率的な活用により改善が行われているが、継続的な努力が必要である。現状の問題点とされる教員の年齢構成については、是正に向けた計画性を持った努力が必要である。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

- ・2019年度に予定している次期カリキュラム改定において大幅に教育内容が変更になるため、2017年度の学習達成度自己評価システムの改良は見合わせた。仕様の確認、問題点の洗い出しおよび改善の検討は継続的に進めている。
- ・学習達成度自己評価システムに関しては、学生自らが年間履修単位数を点検し、進級卒業要件、資格要件に必要な単位修得状況、GPAなどを確認することにより、履修漏れ件数が低減している。教員の学習・進路指導に活用されている。海外語学研修プログラムについては、研修前後のTOEICの成績アップより学習効果を検証している。参加学生に対して、研修のみならず、日常生活についてもアンケート調査を行い、結果を研修先大学に要望として伝えて改善を行っている。なお、研修中も、専任の教員が現地で参加学生全てからヒアリングを行い、日本と調整の上、随時改善を行っている。
- ・教育学習施設に対しては造形制作室運営委員会を新たに設置し、継続的にスペースの有効活用の検討を進めている。
- ・教員の年齢構成の是正に関しては、「デザイン工学部・若手採用人事」に関する申し合わせを作成し、若手教員の新規採用を鋭意進めている。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

デザイン工学部では、高い評価を受けている既存のカリキュラムを更に改善すべく、2019年度にカリキュラム改定を予定していることは、高く評価できる。また、海外語学研修プログラムに関しても、更なる改善に向けた取り組みを行っている様子も伺われる。

冊子「2019年度デザイン工学部 GUIDE BOOK」が工夫されて編集されており、受験生が学部のカリキュラム、取得可能な資格、学部卒業後の将来像をイメージしやすい。高い目的意識を持った学生が入学することが推察され、高く評価できる。現状の問題点とされる教員の年齢構成については、是正のための計画が立てられ、実施されている。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【理念・目的】

ひたすら効率を追い求めて技術を進歩させてきた20世紀は、快適性や機能が向上して豊かな時代を築いてきた。しかし、その技術の進歩の裏には、複雑化した社会問題や、地球温暖化に代表されるような環境問題が発生してきた。21世紀は、社会や環境に配慮した、持続可能な技術の時代に入り、工学技術の発展を人間環境・都市環境・地球環境の立場に立って進め、その発展を本来の意味の人類の幸福と環境の保全、そしてその一層の充実のために役立てることが必要である。

このようなことを実現するためには、人間の環境を基本にして、工学・科学技術と、人間の最も自由な発想である「デザイン」とを結びつけ、その総合的・広範な精神によって、高次にバランスのとれたデザインをなすことが必要である。言い換えれば、「自然と環境」を基盤に、「歴史と文化」の遺産を基礎に置いて、「芸術」と「工学・技術」の幅広い融合が求められている。デザイン工学部における教育の理念と目的は、工学に基礎・基盤を置きながら、他の学問分野との知識の融合による正しい価値を創造しデザインする工学として、「総合的デザイン」能力を身につけた学生を養成することにある。

【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的】（教育目標）※学則別表（11）

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

デザイン工学部は、以下に示すような人材を育成する。

1. 地域の歴史・文化を尊重し、人の感性と自然との共生を重視して安全で安心な社会・生活の形成に貢献できる。
2. 都市環境・地球環境の視点に立ち、人類の幸福や自然環境の保全に配慮して、工学技術の発展と一層の充実を主導できる。
3. 課題を見つけ、その課題を解決する方法・手法を考え、その方法・手法を駆使することより解決策を見出し、解決策を提示するとともに実行できる。
4. 工学だけではなく、他の学問分野との知識の融合による新しい価値を創造する総合デザイン力を有する。
5. 科学技術がもたらすプラスの面だけではなくマイナスの面も理解した上で、人々の安全・健康・福利に貢献できる。

<建築学科>

建築学科は、以下の7項目からなる「アーキテクトマインド」の習得を教育目標に掲げ、その能力を備えた人材を育成する。

1. 総合デザイン力：

工学をベースとしながら、他の学問分野との知識の融合による正しい価値を創造し、デザインする工学としての総合デザイン力と技能を有する。建築の問題を幅広い観点から捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を有する。

2. 文化性：

歴史と文化という視点は他の工学分野と建築を峻別する。建築とは異文化への造詣を養い、過去を参照しながら、現在および未来を志向するものである。このような建築の文化性を理解できる。

3. 倫理観：

地球環境をいかにして保持するかが建築・都市・環境に関わる専門家の倫理観の根幹とならなくてはならない。建築デザインは社会的責任を伴うものであることを理解できる。

4. 建築の公理：

建築の初源がシェルターであるとするなら、安全、安心、快適は建築の根源的な公理である。建築が健全な社会の礎を担うための基礎知識を有する。

5. 芸術性：

技術と芸術の両立は永遠のテーマである。建築がそのふたつの要素の統合を果たしたとき、人に感動を与えることができる。このような芸術性の素養を身に着けている。

6. 教養力：

建築の背景となる社会的な要請を論理的に分析し、理解することは建築を構想する土壌となる。数学、物理学などの自然科学および情報技術に関する知識が客観的で総合的な見識の基礎であることを理解し、それらに関する基礎学力を有する。

7. 表現力：

建築することとは統合することであり、統合するためにはコミュニケーションやチームワークが不可欠である。そのスキルを担う、さまざまなレベルでの表現能力の涵養が社会を見据えた提案能力を培う。以上のことを理解し、それらの基礎的な能力を身に着けている。

<都市環境デザイン工学科>

都市環境デザイン工学科は、以下のような素養を備えた技術者を育成する。

1. 歴史・文化の尊重と自然との共生：

地球的視点に立って、地域の歴史・文化を尊重する人格を形成し、自然環境と共生する社会基盤システムの整備に貢献できる思考能力、分析力、応用能力

2. 技術者倫理：

科学技術がもたらすマイナス面を理解した上で、災害や自然環境への適切な対処によって公共の安全・健康・福利に寄与する素養

3. 工学基礎学力：

社会基盤システムの整備に不可欠な数学、自然科学、情報科学に関する基礎的な能力

4. 専門基礎学力：

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

社会基盤システムを計画・設計・施工・維持管理・評価する上で必要な材料工学、構造工学、地盤工学、水工水理学、計画学などの専門基礎学力

5. 専門知識の活用・応用能力：

工学基礎学力と専門基礎学力をもとに、都市プランニング、環境システム、施設デザインに区分したより高度な専門知識を学び、また実験・実習や卒業研究を通して、理論と実際の相違を考察・評価する能力と手法を習得し、それらを実際問題に活用・応用できる能力

6. 総合デザイン能力：

工学基礎学力・専門基礎学力・専門知識の活用・応用能力などをもとに、持続可能な社会基盤システムの計画・建設・維持管理に係る諸問題を解決するためのデザイン能力

7. コミュニケーション能力：

自己の考えを論理的、客観的にまとめて記述するとともに適切な発表や討論を行う能力と、英語を中心とした基礎的な国際コミュニケーション能力

8. 継続的学習能力：

目的意識を持って自己の能力向上を継続的・積極的に進める意欲と、それを計画的に実行する能力

9. 業務遂行能力：

さまざまな制約条件を正確に分析・理解した上で、他者と協力して計画的に業務を遂行する能力

<システムデザイン学科>

システムデザイン学科は、以下のような素養・能力を備えた人材を育成する。

1. 人間や環境との協調・調和：

高齢社会における人を中心としたデザインと地球規模の自然環境を配慮した「もの・システム」づくりを多面的に考えることができる能力と素養

2. 技術者倫理：

デザインから生産まで、全ての「ものづくり」のプロセスを総合的に眺め、グローバルな倫理観に基づいて公共の安全・健康・福祉に寄与できる責任ある技術者としての素養

3. 工学的教養：

工学分野のみならず、人文社会科学、自然科学、情報科学といった幅広い分野の基礎知識を習得し、情報・シミュレーション・表現技術などを道具として専門分野に応用する能力、ならびにデザインに関わる様々な分野の人々と共同して、自ら問題を解決する能力

4. 専門基礎学力：

3つの専門分野（クリエーション系、テクノロジー系、マネジメント系）の基礎知識を習得し、あらゆるシステムをデザインするための基礎となる共通の技法や一連の考え方に対する基礎学力

5. 創造的工学能力：

創成型科目を通して、見慣れて存在意義に疑問をもたなくなり、不便を感じながらも受け入れていた「もの」や「システム」に対する既成概念を取り払い、問題を発見できる能力

6. 「ものづくり」実践能力：

プロジェクト科目（実習科目）を通して、考案、設計、試作までの過程を計画し、実践する能力や、その過程において工具類などを使いこなす能力

7. 総合デザイン能力：

3つのシステムデザイン系の各課題を全て学修し、横断的な知識の融合により、人間を設計の中心に据えた「もの・システム」づくりの考え方を志向する新しい形の総合システムデザイン能力

8. コミュニケーション能力：

自己の考えや作品のアイデアなどを論理的かつ客観的に記述し、効果的にプレゼンテーションできる能力、ならびに、英語を中心としてコミュニケーションする基礎能力

9. 継続的学習能力：

技術者資格の取得や英語学習など、目的意識をもって自己のスキルアップを継続的に進める意欲と素養

10. 業務遂行能力：

与えられた環境や期日などの制約条件を正確に分析し、理解したうえで、指定された業務を計画的に遂行する能力

①学部（学科）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。

はい いいえ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

②学部（学科）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。 はい いいえ

③理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

(～400字程度まで) ※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

2012年度から各学科から選出された質保証委員会を立ち上げ、年4回の質保証委員会を開催し、理念・目的の適切性を学科相互に検証している。

<建築学科>

JABEE（日本技術者教育認定機構）による認証評価を受けている。学科内に JABEE 運営委員会とそれに連携する外部評価委員会（年1回開催）を設置し、理念・目的の適切性を定期的に検証している。JABEE 運営委員会の活動と外部評価委員会による評価を資料とし、教室会議において関連事項の審議・検証を行っている。

<都市環境デザイン工学科>

学習・教育到達目標 WG を設置し理念・目的が社会情勢の変化に伴って適切なものとなっているかを検証するとともに、最低1年に2回はWGを実施して教室会議において報告を行い、拡大教室会議においてその妥当性について審議している。

2004年度から JABEE の認定を受け、継続的に受審することにより、理念・目的の適切性を検証している。

<システムデザイン学科>

年度末に学科の教室会議において、理念と目的の適切性の検証を行い、その後開催される専任教員と外部講師とのカリキュラム打ち合わせ会において、全員で意見交換を行っている。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。 はい いいえ

②どのように理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。

(～400字程度まで) ※具体的な周知・公表方法を記入。

「履修の手引き」に「デザイン工学部の理念・目的・教育目標」を掲載し、学生・教員全員に配布し、周知を図っている。また、学部ホームページでその内容を公開している。さらに学部建物内の講師室内など数か所に「学部の理念」を掲示している。

<建築学科>

1.1 で示した理念・目標を小冊子に明記し、教員と学生に配布している。学生にはガイダンスを通じて周知しているが、それに加えて1年生には、必修授業である「導入ゼミナール」において、詳細を解説している。また、同内容は学科ホームページを通じて公表している。

<都市環境デザイン工学科>

1.1 で示した理念・目的を履修の手引き及び学内の掲示板に公表することで大学構成員に周知するとともに、本学科のホームページにも掲載し、社会に公表している

<システムデザイン学科>

1.1 で示した理念・目的を学科のホームページに掲載し、公表するとともに、履修の手引きにも掲載し、これを配布して学生に周知している。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
デザイン工学部の理念・目的に沿った基盤教育における専任教員の不足。	

【この基準の大学評価】

デザイン工学部の理念・目的の設定は適切に設定されており、適切性の検証も各学科と各大学院専攻から選出された質保証委員会にて検証されている。また、理念・目的は「履修の手引き」に明示され、社会に対しても学科ホームページ等に掲載して、公表されている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

2 内部質保証

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2017年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

- ・質保証委員会は各学科の専任教員から1名（計3名）と各大学院専攻主任3名の計6名で構成。学科選出委員は学科の意見取りまとめ、学科状況の把握に努め、その他の委員は学部全般に関する視点を持って委員会の作業全般に参加
 - ・年4回開催（2017年4月21日、5月26日、12月15日、2018年3月2日）
- 主要議題
自己点検・評価シート素案の確認／学部の3つのポリシー確認／2018年度シラバス記載内容のチェック

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
シラバス記載内容のチェック	2.1①

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

デザイン工学部では、年4回の質保証委員会を開催し、理念・目的の適切性を学科相互に検証していることから、質保証委員会は適切に活動していると言える。

3 教育課程・学習成果

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

1. 国際的な視野に立ち、自然、環境、歴史や文化に配慮して、美学と工学・技術の融合から生まれる、新しい「ものづくり」・「空間づくり」・「都市づくり」に関する基本的な知識や考え方を体系的に理解できる。
2. 工学の知識体系を背景として、他の学問分野との知識の融合による総合デザイン力を身につけている。
3. 総合デザイン力を実際問題に適用するための思考力・応用力を身に付け、さまざまな制約条件を正確に分析・理解した上で計画的に課題に対応できる。
4. 社会の一員として、他者と協力できる。
5. 社会との対話や社会への説明のためのコミュニケーション能力を有する。
6. 自己の能力向上を継続的・積極的に進める意欲を有し、継続的自己学習を計画的に実行できる。

<建築学科>

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

1. 大学で学び得た事柄を良き社会人として人々の厚生と福利のために役立てることを倫理的な使命と考える。
2. 建築家、建築技術者として社会から付託されている職能が安全かつ健康にして美しい建築・都市環境の創造とその保全にあることを理解し、その職業的責任を果たす覚悟がある。
3. 修得した建築に関する基礎的な知識と技術を有効に活用して、様々な分野の協業関係者と相互理解を深め、協調的に取り組みながら、最良の成果を目指すことを第一義とする。
4. 建築に関わる情報技術の習熟を通じて、複雑で多岐にわたるデータを適格に把握し正確に分析処理することができ、

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

結果を解りやすく有用な表現形式に再構築し提供できる。

5. 企画やデザイン提案、研究や報告内容について、論理的に記述し明解に口頭説明する能力、及び他者と建設的に討議討論する能力、並びにそれをいついかなる場においても発揮することのできる語学力を有する。

<都市環境デザイン工学科>

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

1. 地球的視点の下で地域の歴史・文化を重んじながら、持続可能社会に必要な基盤システムの整備と維持管理を担うことができる。
2. 科学技術の光と影を的確に見極め、人類の幸福を実現するための公益に資する技術を社会へ提供できる。
3. 技術者としての公平性・誠実性・不偏的態度を備え、継続的に自己を研鑽するとともに、後進の人材を教育・育成することができる。
4. 技術者としての使命を果たす上で必要な教養と専門知識を備え、それらを活用・応用することにより様々な制約条件下で困難な課題を解決することができる。
5. 地域・国際社会との対話・協調・協働に必要なコミュニケーション能力を有し、技術者としての説明責任を果たすことができる。

<システムデザイン学科>

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

1. ものごとを、様々な要素が複雑に関係しあうシステムとしてとらえ、その中から問題を発見できる。
2. 問題解決のための具体的なモノやコトを構成し提案できる。
3. 人間中心に「もの・システム」をデザインできる。
4. 環境・健康・福祉・公共の安全を理解できる。
5. 国際的な視野に立って判断ができ、技術者として説明責任を果たすことができる。

①学部(学科)として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件)を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

デザイン工学部では、以下のように科目群を形成している。

1. 外国語科目(英語など)
2. 基盤科目(法律系、経営系、人文系、保健体育、留学生科目、工学系)
3. 学科基礎科目(学科独自で開講)
4. 学科科目(学科独自で開講)
5. 学部科目(学部共通科目)
6. 特別科目(他学部開講科目など)
7. その他(他学部公開科目、大学としての開講科目、卒業所要単位外)

これらの科目群・科目の編成に際しては、以下の事項に配慮している。

1. 導入科目の充実
2. 多様な内容、文理融合を目指した基盤科目と外国語科目の充実
3. 基礎的科目と専門教育の連携とその体系的な編成・配置
4. 実務と結びついた演習・実習教育、スタジオ教育の充実
5. 多分野の先端技術に対応するための学部共通科目(学部科目)の設置
6. クラス制・担任制導入による個人差や多様性を尊重した少人数教育の充実
7. 社会への情報公開や説明責任の遂行に必要な倫理観を養うための技術者教育の充実

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<建築学科>

教養から基礎・専門に至る建築学の知識と技術を体系化したカリキュラムとしている。

1. 開講科目の体系

- ① 外国語科目：英語
- ② 基盤科目：法律系、経営系、人文系、工学系、保健体育、留学生科目
- ③ 専門科目：
 - (i) 学部科目
 - (ii) 学科基礎科目
 - (iii) 学科科目
 - (iv) 特別科目

2. 五つの専門科目系と目標

(ii) 学科基礎科目と(iii) 学科科目に関しては五つの専門科目系が以下のように設定されており、それぞれの目標に向かって学修する。「建築デザイン」、「建築・都市史」、「環境工学・建築設備」、「建築構造」、「建築構法・施工」

3. 科目体系が備える特徴・教育効果

- ・専門科目では、高度な数学的手法や実験、シミュレーション技術を学ぶ。その導入として学科基礎科目(物理・数学等)は、専任教員が専門との連携的授業を組立て、指導を行うよう体系化されている。
- ・専門科目では、「建築デザイン」、「建築・都市史」、「環境工学・建築設備」、「建築構造」、「建築構法・施工」の各分野が工学的な知識・理論を基盤に、「芸術的な素養」を加えて重合しながら有機的に結びくよう構成されている。
- ・各分野を総合的に把握できる能力を獲得するために、横断的なプログラムを構成し、とくに「フィールドサーベイ」、「プロジェクト学習」、「インターンシップ」など、実践を重視した学習プログラムを重視している。
- ・1年から4年次まで通して配置された「デザインスタジオ」は、少人数教育の実現により、個性の発見と伸長が図られている。

<都市環境デザイン工学科>

一般教養、語学などから基礎・専門に至るまでの都市環境デザイン工学の知識と技術を体系化したカリキュラムとしている。

1. 開講科目の体系

- ① 外国語科目：英語
- ② 基盤科目：法律系、経営系、人文系、工学系、保健体育、留学生科目
- ③ 専門科目：
 - (i) 学部科目
 - (ii) 学科基礎科目
 - (iii) 学科科目
 - (iv) 特別科目

2. 三つの専門科目系と目標

(ii) 学科基礎科目と(iii) 学科科目に関しては三つの専門科目系が以下のように設定されており、それぞれの目標に向かって学修する。

- I. 都市プランニング系：持続可能で美しい都市や国土を実現するために、都市機能・環境・景観・歴史文化等の多様な観点に関する分析・計画・デザインについての知識と技術を修得する
- II. 環境システム系：自然との共生と災害の軽減・緩和を果たす環境システムを創り維持するための基礎学理と先端技術を修得する。
- III. 施設デザイン系：安全で機能性の高い構造物をデザインし、維持・活用するための知識と技術を修得する。

3. 科目体系が備える特徴・教育効果

- ・初学年に配置された導入教育科目を通して専門科目への円滑な移行が可能である。
- ・地域・国際社会で活動する技術者となるために、外国語・基盤科目・学科基礎科目の受講を通して人文・社会・自然科学に関する基礎知識、外国語能力、技術者倫理などを修得できる。
- ・基礎から専門科目に至る学術・技術体系の階層性、専門科目間の相関構造を正しく理解し、総合デザイン能力着実に醸成されるように、授業科目が体系化されている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ・実習・演習・スタジオ系科目においては知識体系の実質化・実装性を体験でき、充実したアクティブ・ラーニング授業が進められている。
- ・学部科目の履修によりデザイン工学全般にわたる最新技術情報を修得し、総合デザイン能力を確実に習得できる。
- ・クラス担任制度を導入し、各自が備えた資質・個性の多様性を活かした少人数授業を受講できる。
- ・自己点検評価システムによって、各学年・就学段階における学習目標達成度、GPA、技術者資格要件の充足状況などを学生自身が自主管理し、必要に応じて担任教員の支援を受けながら効果的にディプロマ・ポリシーを実現できる。

<システムデザイン学科>

システムデザイン学科は、人間中心の美的・機能的デザインを基本に、横断的な知識の融合と豊富な実習体験を通して、コンセプトデザインからプロダクションマネジメントまで、「ものづくり」を総合的に学ぶカリキュラムとしている。

1. 全科目を以下の3つの区分に分け、横断的な知識を身につけることで工学的教養を修得する。
 - ①外国語科目
 - ②基盤科目
 - ③専門科目
2. 専門科目は、「ものづくり」を「クリエイティブ」(クリエイション系)・「テクノロジー」(テクノロジー系)・「マネジメント」(マネジメント系)の3つの視点から捉え、これらをバランスよく履修することで、「ものづくり」に必要な知識や技術、考え方を多角的に学ぶことを目指している。

クリエイション系：人々が求めている“何か”を具体的な形にするために、構成力、編集力、発想力、問題発見能力とそれを他人に対して説明できる能力を修得する。

テクノロジー系：構想やアイデアを実現するための具体的な構造や機能を、現実世界の中で設計し、それを現実のモノとして作り上げ、動かして見せるための知識と技術を修得する。

マネジメント系：経営戦略や、マーケティング、そして最適オペレーションなど、システムデザインを実際に社会の中で人々の手によって実践するために必要な知識と技術を修得する。
3. 実習体験に基づいた創成型科目やプロジェクト型科目、デザインの現状、最新動向を知るためのフィールドワーク科目や事例研究科目などを設け、実社会との連携を取りながら、総合的デザインに対する動機付けや実践的な能力を修得する
4. クォーター制の1クォーター利用して海外で英語研修を実施し、英語によるコミュニケーション能力を修得する

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい いいえ

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き
- ・法政大学ウェブサイト「教育目標・各種方針」<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/index.html>

③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

S A B

(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。

<学部共通>

各学科から選出された委員からなる質保証委員会を2012年度に立ち上げ、年4回の当委員会において、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性を学科相互に検証している。

<建築学科>

JABEE(日本技術者教育認定機構)による認証評価を受けている。学科内にJABEE運営委員会と外部評価委員会(年1回開催)を設置し、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を定期的に検証している。JABEE運営委員会の活動と外部評価委員会による評価を資料とし、教室会議において関連事項の審議・検証を行っている。

<都市環境デザイン工学科>

教育目標、学位授与方針が社会情勢を反映した適切な内容となっているかを学科内に設けた学習・教育到達目標WGにおいて随時検証し、教育課程の編成・実施方針については、教育内容WGにおいてその適切性の検証を行っている。さらに、3年に一度を目処に外部有識者数名からなる「教育評議員会」を開催し、標記事項の適正性についての評価を受けている。

<システムデザイン学科>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

年度末（2017年度は2018年3月7日（水））に外部の兼任講師を含む授業担当者による授業打合せ会を開催し、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性を検証・確認している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

<建築学科>

・JABEE 運営委員会議事録

<都市環境デザイン工学科>

・拡大教室会議の配布資料・議事録（WG 活動報告を収録）

・教育評議員会の配布資料・議事録

<システムデザイン学科>

・授業打合せ会開催案内

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

(~400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

<建築学科>

日本技術者教育認定機構により、学士課程と修士課程の2つの教育プログラムの同時認定を取得。これによりUIA（国際建築家連合）提唱の建築家教育基準の認定も兼ね、国際水準をみたく学士課程・修士課程の教育内容となっている。

<都市環境デザイン工学科>

当学科の教育プログラムはJABEE（日本技術者教育認定機構）に認定されており、国際社会が求める技術者人材を輩出する教育内容となっている。3つの専門科目系（都市プランニング系、環境システム系、施設デザイン系）が設定されており、総合デザイン工学に関する教育を行っている。また、9項目の学習・教育到達目標を設定し、各授業において修得可能な能力を定量的に示すことで、様々な素養や能力を計画的・主体的に修得できる教育課程となっている。

<システムデザイン学科>

基礎から専門までを段階的に学習できるよう教育課程を編成している。1年次に工学やシステムデザインの基盤を、2年次にはシステムデザインの3つの系（クリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系）の基礎理論と手法を主に学ぶ。3年次は系の選択による専門性の深化とともに、プロジェクト科目によって社会に適用可能な技術や手法を横断的かつ実践的に学ぶ。4年次は、プロジェクト実習や卒業研究・卒業制作を通して専門性の高い知識や技術の習得を目指す。

これらの考え方や科目の構成はカリキュラムツリーやカリキュラムマップと共に履修の手引きに詳しく説明されている。

【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・2019年度カリキュラム改定に向けて基盤教育委員会とカリキュラム検討委員会を設置した。

【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

・デザイン工学部生のための履修の手引き

・第17回運営委員会議事録

・都市環境デザイン工学科オリジナルサイト<<http://civil.ws.hosei.ac.jp/wp/>>

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

S A B

(~600字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

外国語、基盤科目（社会・人文、保健、工学系）、専門科目（学科基礎、学科独自、学部共通）、専門科目の順に、学年進行とともに専門性が段階的に充実するカリキュラム体系をつくり、各年次の進級条件・卒業要件など履修のガイドラインを視覚的に表現している。

オリエンテーションの一環である導入ゼミナールでは、各学科が提供する教育カリキュラムを体系的に解説すると同時に、少人数グループ指導により専門教育の導入を行う。

年次時系列で見た専門科目間のつながりを履修モデルとして提示し、学生自らによって適切な履修順序を見出しやすい教育体系としている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・デザイン工学部生のための履修の手引き	
③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>教養教育と専門教育に関する区分を改め、初年度から専門性を獲得し、最終年に至る過程で両分野を融合的に学習できるカリキュラム体系としている。</p> <p>教養教育は文化歴史に対する包括的な理解を促すと共に、社会的責任を自覚した実践的な職業倫理を鍛えるものとして捉える。具体的には以下の施策として実現。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然科学系教養科目：専門教員が担当し、専門科目との一貫性を確保。 ・外国語教育：英語教育は TOEFL-ITP を熟達度指標とした実践型とし、外部の専門教育組織に委託。中国語・イタリア語系は語学教育をベースに異文化理解を目指した教科として捉える。 ・基盤科目：経営系、法律系、人文系、工学系の科目から、デザイン工学の実践的側面を補うものを取り揃え、学年を超え配当。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
・デザイン工学部生のための履修の手引き	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p><建築学科></p> <p>導入ゼミナール（1年次）を設け、初学者に必要な履修・学習方法の指導を行っている。また、数学・物理の知識が不十分な学生に対して補習授業を行っている。</p> <p><都市環境デザイン工学科></p> <p>初年次導入科目として、導入ゼミナールを設けており、初学者のための履修指導および学習指導を行うとともに、コンピュータリテラシー、ロジカルライティング等の基礎教育を行っている。また、高大接続への配慮として、1年生を対象とした力学系、数学系科目では高校数学の復習を適宜講義内容に取り入れており、外国語科目（英語）および物理系科目では習熟度別クラス編成を実施している。</p> <p><システムデザイン学科></p> <p>「導入ゼミナール」（1年次 AB 期）において、図書館ガイダンスやマナー講座を実施するとともに、フィールドワークやグループワーク形式の授業を取り入れている。また、プレースメントテストの成績を基に、物理の知識が不十分な新入生に対して物理補講を実施している。さらに「システムデザイン入門」（1年次 A 期）において、全専任教員からシステムデザインという学問分野を分野横断的に解説し、学生のそれぞれの立場から学科で学ぶ目標や意味を見つけ、キャリア形成の重要性などを自覚するようにしている。</p> <p>【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生向け導入教育について WG を設置して議論をしている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部生のための履修の手引き ・第13回運営委員会議事録 <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業記録 <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業記録 <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業資料 	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人非常勤講師による講演・講義を開催している。 <p><建築学科></p> <p>2年次、外国人教員担当「Design Basics in English」 「特別講義」を設置。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

3年次、「デザインスタジオ 6」に外国人教員による英語での設計教育を導入。大学院の「海外交流プログラム」と連動した「国際ワークショップ」を開催。

<都市環境デザイン工学科>

基礎科目「開発と国際協力」では、海外勤務経験の豊富な技術者を兼任講師として、海外事業、技術の国際性、プレゼンテーションの要点を教授。

2年次には工業英語、3年次には工業英語実習において実践的英語を教育（工業英語では試験科目として工業英検3級、4級を導入）。

<システムデザイン学科>

2016年度より南フィリピン大学で、個人レッスン90時間・グループレッスン60時間におよぶ「海外英語研修」（C期、50日間）を実施し、帰国後のTOEICスコアのアップにつながっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

<学部共通>

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き

<システムデザイン学科>

- ・授業資料

⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

S A B

(~400字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

<学部共通>

- ・少人数制「導入ゼミナール」の中で卒業後のキャリアパス紹介を実施。
- ・3年次「インターンシップ」による実務体験。
実務で活躍する社会人による特別講演会の開催。
- ・実社会の現状・課題等をキャッチアップするため、兼任講師による講義を多く導入している。

<建築学科>

「建築入門」（1年次）を通し専門分野を概覧。演習科目「デザインスタジオ1~2」「造形スタジオ」（1年次）により建築デザインの基礎を習得。キャリア教育として大多数の専門科目を建築士資格指定科目と対応づけている。

<都市環境デザイン工学科>

導入ゼミナール（1年次）におけるキャリアパスとロールモデルの説明、キャリア紹介ビデオの視聴、ゼミナール（3年次）におけるキャリア指導（キャリアセンターによる講演）、技術士説明会（本学科卒業生による講演）、同窓会（法士会）との懇談会（キャリアデザインセミナー）を実施している。

<システムデザイン学科>

「システムデザイン入門」（1年次）の一環として、キャリアセンターの協力を得てキャリアデザインに関する講義を実施するとともに、システムデザイン関連分野の実務者をゲスト講師に招いた講義を行っている。また3・4年次に「インターンシップ（SD）」を設け、積極的な取り組みを指導している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

<学部共通>

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き
- ・Web シラバス

<建築学科>

- ・授業記録

<都市環境デザイン工学科>

- ・授業記録

<システムデザイン学科>

- ・授業資料

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。

- ・入学・進学時のガイダンス、導入ゼミナールにおける履修指導。
- ・「デザイン工学部生のための履修の手引き」を活用した履修指導。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ・学習達成度自己評価システムを学生に提供している。学生自らが年間履修単位数を点検し、進級卒業要件、資格要件に必要な単位修得状況、GPA などを確認し、達成度の状況に応じて担任教員が学生との面談に応ずる。
- ・システムデザイン学科の SSI コースの学生については、一般の学生とカリキュラムが異なるため、履修登録時に別途時間割を確認しながら指導している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

<学部共通>

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き
- ・ガイダンス日程表

<建築学科>

- ・IAE サーバー「CARESS」(履修支援システム) の利用案内

<都市環境デザイン工学科>

- ・学生から提出された「学習達成度自己確認システム」(教員による内容確認済み) の保管資料

<システムデザイン学科>

- ・2016 年度 SSI 履修要項・講義概要

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S A B

(~400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

- ・シラバスに学習に必要な事項を明記。
- ・1 年次「導入ゼミナール」において学部課程における学習方法を指導。
- ・入学・進学時のガイダンスにおいて、当該学年に特徴的な授業や履修上の注意点等を説明。
- ・全教員がオフィスアワーを設定し学生の個別相談に対応。
- ・エチュードを活用した指導。
- ・各演習科目に配置した TA による学習支援。
- ・都市環境デザイン工学科では担任制により学習指導(成績不振学生との面談等)を実施。
- ・システムデザイン学科では学年毎に学年担当の教員を配置。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き
- ・Web シラバス

③学生の学習時間(予習・復習)を確保するための方策を行なっていますか。

S A B

(~400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

<学部共通>

年間履修制限 49 単位を設け、学習時間を確保しやすい仕組みとしている。授業時間外に教室を開放して学習場所を確保するよう努めている。

<建築学科>

学科内の IAE (Integrated Archive Environment) サーバーにより授業成果物を記録し、予習・復習素材として公開。同サーバーの RFC (Request For Comments) 機能により、双方向性の自習が可能。

<都市環境デザイン工学科>

シラバスや授業計画を参考にし、事前に学習すべき内容を学生へ周知。講義では適宜、宿題を課して復習・自習の動機を与えている。実験・実習・演習ではレポート作成によって復習を徹底する授業運営としている。4 年生には卒業研究実施記録の作成を指導し、研究内容を日常的に記録・報告させて学生の自己管理を基本とする教育指導体制としている。

<システムデザイン学科>

予習・復習のため、授業支援システムを活用した資料提供や学習指示を行っている。特に演習・実習系の授業では、授業時間外での作品制作やグループワークが行われるため、スタジオルームを授業時間外に開放したり、造形室やゼミ室を利用できるようにしたりするなどの配慮を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

<学部共通>

- ・Web シラバス

<建築>

- ・IAE サーバー「RFC」(Request for Comments) の利用案内

<都市>

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究実施記録 ・各授業の講義記録 	
④1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【履修登録単位数の上限設定】 ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位数の上限を記入。 年間履修登録単位数の上限を49単位と定めている（ただし、教職資格科目は除く）。</p> <p>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】 ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。 該当なし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・デザイン工学部生のための履修の手引き</p>	
⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会の現状・課題等をキャッチアップするため、兼任講師による講義を多く導入している。 <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「デザインスタジオ5～6」少人数制設計教育（Hosei Active Learning-HAL スタジオを活用したアクティブラーニング） ・「フィールドワーク」グループワークにより街区や建物の調査を行い、図面・模型製作（PBL型フィールドワーク） <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「導入ゼミナール」技術者レクチャーに基づく学業行動計画策定のためのグループワーク（アクティブラーニング）、および技術課題をテーマとするグループ単位のディベート（グループワークによるアクティブラーニング） ・「デザインスタジオ1」紙の小片を組み合わせた架構の構想と制作（アクティブラーニング） ・「橋のデザイン」橋梁の計画と模型製作（アクティブラーニング） ・「鋼構造デザイン実習」鋼構造の計画と模型製作（アクティブラーニング） ・「RC構造デザイン実習」配筋模型の製作（グループワークによるアクティブラーニング） ・「ゼミナール」卒業研究の疑似体験、技術課題をテーマとするグループ単位のディベート（グループワークによるアクティブラーニング） ・「デザインスタジオ2」対象地区に対する現地調査・課題抽出に基づく改善策の図面化と模型製作（PBL型フィールドワーク） <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海外英語研修」（2年次C期）国際性を涵養するための英語によるコミュニケーション能力向上（個人授業を含む） ・「ゼミナール1」（3年次AB期）全学生による複数のプレゼミの受講（多分野融合研究の基礎構築） ・「プロジェクト実習・制作2」（3年次CD期）製品企画、設計、製造、流通に至る「ものづくり」の過程を総合的・横断的に実習（多分野融合研究の基礎構築） ・「応用プロジェクト1・2」（4年次）本格的な製品企画と、その具現化（PBL型科目）および作品の学外コンペティションへの積極的な応募を奨励 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・Web シラバス ・「海外英語研修」資料</p>	
⑥それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>（～400字程度まで） ※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>全学科で実施している導入ゼミナール（1年春学期）では、全専任教員が担当することで少人数の新入生とのコミュニケーションを図り、専門教育への円滑な導入を図っている。建築学科では学生個別の指導が必要な「デザインスタジオ」「造形スタジオ」等のデザイン系演習科目について、学年を3ないし4クラスに分割して少人数授業を実施している。都市環境デザイン工学科では、数学・物理等の基礎的科目および「RC構造デザイン」「鋼構造デザイン」などの講義科目、「工学実験1」などの実験科目、「測量実習」「デザインスタジオ2」などの実習科目において2クラスに分割して少人数での学習指導を実施している。システムデザイン学科では「図形科学基礎演習」「プログラミング基礎演習」「デジタルデザイン演習」「3Dモデリング（クリエーション系/テクノロジー系）」などの演習科目において2クラスに分割して少人数での指導を実施している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・デザイン工学部生のための履修の手引き	
⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 <学部共通> ・質保証委員会にて検証を行っている。 ・全教員・学生による Web で公開シラバスの閲覧。 <建築学科・都市環境デザイン工学科> ・学科内の日本技術者教育認定機構プログラム責任者を中心とした検証。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・Web シラバス	
⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・授業実施の証拠資料（配布資料、講義記録、学生提出物、補講資料）を JABEE 室において保管し、プログラム責任者を中心に検証（建築学科、都市環境デザイン工学科）。 ・教室会議、拡大教室会議による授業エビデンス提出状況の確認。 ・次期授業改善計画を作成し、授業内容・シラバスを継続的に再点検・見直す。 ・複数教員科目に関しては、授業終了時・開始時における打合せにより授業内容・シラバスの再点検・見直しを施す。 「デザインスタジオ」「フィールドワーク」等の実習授業では、成果発表・展示を通して検証。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <建築学科> ・IAE サーバー「CARESS」（履修支援システム）の利用案内 <都市環境デザイン工学科> ・各授業の講義記録、授業改善計画書	
3.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・成績評価に対する疑義については、成績調査により対応。 ・必要に応じて解答用紙を開示し、採点理由を説明。 ・ガイダンス時および、履修の手引きやシラバス上で成績評価方法と基準を学生へ明示し、JABEE プログラム責任者（建築、都市）を中心に成績評価・単位認定の妥当性を検証。 ・採点結果報告書（成績原簿）を作成・保管し、必要に応じて成績分布を確認するシステムを採用。 ・グループワーク等、各人のグループ成果への貢献度の定量評価が難しい科目では、役割分担を明らかにするなどの対策を講じている。	
【2017 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 ・デザイン工学部生のための履修の手引き ・Web シラバス ・成績評価の調査について（掲示） ・成績調査願	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input checked="" type="checkbox"/>
（～400 字程度まで）※取り組み概要を記入。 該当学生による他大学での単位認定申請に基づいて単位互換性を各学科で検討し、運営委員会および教授会で審議して単位を認定する。各学科では、既修得単位と当学部の科目との互換性を様々な客観的情報に基づいて点検し、他学で修得した単位を本学での単位として認定している。一部の学科においては内規を設けているが、学部としての規定は設けていない。 学部としてのカリキュラムの一貫性保持の理由から転編入制度は設けていない。また、他大学との単位互換に関する協定も設けていない。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・入学前既修得単位の認定について（第70回デザイン工学部教授会資料 p.45）	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。</p> <p>シラバスに明記された方法に整合する成績評価を行っている。出席管理システムに学科で統一した遅刻時間、欠席とする時間設定を設け、欠席回数も統一したルールで評価。成績評価項目（レポート、中間、期末試験など）での評価比率をシラバスに掲載し、成績を適正に評価している。</p> <p>年度末等に開催される講師懇談会・授業打ち合わせ会等の場で、成績の厳正評価を兼任講師を含む全教員で共通認識とすることを徹底している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本技術者教育認定基準（2012年度～）、日本技術者教育認定基準共通基準（2012年度～） <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本技術者教育認定基準（2012年度～）、日本技術者教育認定基準共通基準（2012年度～） <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Webシラバス 	
④学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法、データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職担当教員を中心に求人や内定状況に関する就職活動情報を収集・管理し教室会議で報告 ・学科ごとに集計した進路情報をキャリアセンターに情報提供 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p><学部共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部パンフレット <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録 <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職担当教員による収集資料、キャリアセンターへの情報提供資料 <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録 	
3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・GPCAの算出により授業ごとの成績分布を把握している。 ・成績原簿を作成・保管しており、教員ごとに必要に応じて成績分布の検証に供する。 ・4年次への進級にあたり進級要件を設けており、留級や要注意学生などの状況は教室会議で確認している。 <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・GPCAの算出により授業ごとの成績分布を把握している。 ・各年次への進級にあたり進級要件を設けており、春学期・秋学期終了時に成績不振者や留級者の状況を教室会議で確認、担任教員が個別面談により学習指導を行っている。 <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・GPCAの算出により授業ごとの成績分布を把握している。 ・留級や成績不振学生などの状況を教室会議で確認している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録 <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録 <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p><建築学科> 「デザインスタジオ」などの演習科目では、科目内でいくつかのステップに分けた小課題を設定し、順番に学習していくことで最終的な到達目標を明確化している。課題ごとの講評会は全員が参加する事で、学生自身が振り返りを行い達成度を確認している。</p> <p><都市環境デザイン工学科> 学科で設定した学習到達目標に対する達成度を自己評価することのできるエクセル入力シートを年2回記入させ、学生自身に学習成果を客観的に認識させる取り組みを行っている。また、3年次科目「総合演習」の演習問題に、学習成果を測定する指標として、関連する学協会が主催する公的な資格試験や公務員試験の問題を取り入れ、学生が客観的に実力を認識できる構成にする取り組みを行っている。</p> <p><システムデザイン学科> 奨学金やゼミ所属、就職、大学院進学などはGPAに基づき基準を設け順位付けを行い、評価している。応用プロジェクトや卒業研究・卒業制作等で具体化された作品は、積極的に学外コンペティションへ応募することを奨励し、毎年、いくつかの作品が賞を受賞している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・教室会議議事録</p>	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等)。</p> <p><建築学科> 学習・教育目標に関する学習達成度自己評価システムを構築・提供し、学生自身が学期ごとに自己確認できるようにしている。「デザインスタジオ」などの演習科目で最終講評会を開催し、教員が横断的に学習成果の達成度を確認している。</p> <p><都市環境デザイン工学科> 学習達成度自己評価システムを利用した学習達成度の確認作業によって学生自らが学修実績を振り返り、今後の履修に対する心構えを教員に報告している。各学生の担任教員は、その報告に基づいて学習・教育到達目標毎の達成度や学習効果を定量的に把握・確認している。</p> <p><システムデザイン学科> 就職状況や学内外の各種コンペティションの受賞状況から判断している。2013年4月に学習達成度自己評価システムを導入し、2017年度4月からはデ工学習支援システムに移行して同様に実施しており、学生の志望や志向、履修状況の履歴等を確認できるようになっている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p><建築学科> ・IAEサーバー「CARESS」(履修支援システム)の利用案内</p> <p><都市環境デザイン工学科> ・学生から提出された「学習達成度自己確認システム」(教員による内容確認済み)の保管資料</p>	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入(取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等)。</p> <p><建築学科> ・設計作品、卒業論文、卒業設計については、作品集、論文集を刊行 ・3.4③で述べたIAEサーバーのRFC機能により、学生による研究成果や作品の発信を図っている。 ・IAEサーバーを利用して学生がポートフォリオ(e-Portfolio)を作成可能 ・演習系の科目では、学期ごとに優秀作品を学内に展示。</p> <p><都市環境デザイン工学科> ・デザインスタジオや景観デザインに関する学生コンペでの優秀作品を展示するとともに、業績をパンフレット・教室ホームページ・教室棟回廊に公開している。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文概要を収録した CD-ROM を作成し、次年度の在學生に配布している。また、学科オリジナルサイトにおいて卒業論文概要を学内に開示している。 学会などにおける学生の受賞をホームページに報告している。 学習達成度自己評価システムによって学習・教育到達目標毎の達成度、GPA、進級・卒業・技術者資格取得に要する取得単位充足状況を定量的に評価している。 <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> 学内外の各種コンペティションの受賞状況をホームページで公開している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> IAE サーバー「RFC」(Request for Comments) の利用案内 『HOSEI STUDIOWORKS』(作品集) 『建築研究』(論文集) <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> 市ヶ谷田町校舎内の回廊展示資料 卒業論文・修士論文概要 CD-ROM 都市環境デザイン工学科オリジナルサイト 学生から提出された「学習達成度自己確認システム」(教員による内容確認済み)の保管資料 <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> 法政大学デザイン工学部ホームページ 	
<p>3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>(~400 字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> JABEE (日本技術者教育認定機構) のプログラム認定審査年度に、成果の公開展示を兼ねた教育内容の振り返りを行っている。 カリキュラムの見直し期には、学科内委員会を発足させてこれにあたっている。 <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> JABEE (日本技術者教育認定機構) による認証評価を受診、認定を受け、評価結果をもとに教育全般の改善を行っている。 毎学期あるいは毎年実施される授業改善アンケートや卒業生対象のアンケート調査を実施してその結果を分析し、学生・卒業生の意見に基づく教育効果を多角的に計測して教育改善を図っている。 同窓会(法土会)主催の社会工学セミナーや同窓会(法土会)との意見交換会を実施することにより、自立力ある技術者人材を輩出するための教育・研究のあり方を議論している。 3年に一度を目処に外部有識者数名からなる「教育評議員会」を開催し、教育課程およびその内容についての評価を受けている。 <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> 教室会議や年度末の授業打合せ会にて学生の履修情報を教員間で交換し、授業内容・方法の見直しの機会としている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p><学部共通></p> <ul style="list-style-type: none"> デザイン工学部生のための履修の手引き 学則変更新旧対照表 <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> 建築 JABEE 運営委員会議事録 教室会議議事録 <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> 教室会議議事録(法土会との意見交換会議事録を収録) 拡大教室会議の配布資料・議事録(WG 活動報告を収録) 法土会会報(社会工学セミナー実施報告を収録) 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・教育評議員会の配布資料・議事録 <システムデザイン学科> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録 ・授業打合せ会案内 	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S A B
【利用方法】 ※箇条書きで記入。 <建築学科> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケートからの「気づき」をシラバスに明記し学科内で共有。 <都市環境デザイン工学科> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケート結果に基づき各科目担当教員が次期授業改善計画を作成し、次期授業の改善に反映させている。 ・学科独自の授業改善アンケート結果に基づいて教員に優秀授業賞を授与し、教育業務へのインセンティブを与えて教育を継続的に改善する仕組みとしている。 ・授業評価の高い科目とその担当教員の一覧を学内掲示板と授業支援システム（エチュード）に開示し、全教職員および学生に周知することで、継続的な授業改善の仕組みを作っている。 <システムデザイン学科> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケート結果の内容を各教員が照査し、特徴的事象については、教室会議や毎年度末に実施している授業打合せ会において情報交換を行い、授業内容の見直しに活用している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <建築学科> <ul style="list-style-type: none"> ・Web シラバス <都市環境デザイン工学科> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議・拡大教室会議議事録 ・エチュード「お知らせ」 <システムデザイン学科> <ul style="list-style-type: none"> ・授業打合せ会案内 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・各学科から選出された委員からなる質保証委員会を年4回開催し、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性、シラバスを学科相互に検証している。 ・建築学科と都市環境システム学科は JABEE（日本技術者教育認定機構）による認証評価を受診、認定を受け、評価結果をもとに教育全般の改善を行っている。 ・全学科において、教員と外部の有識者または兼任講師からなる外部評価委員会等を設置、点検・評価の実施を行い、教育内容・システムの改善を進めている。 ・国際性を涵養するための英語によるコミュニケーション能力向上を目的として海外英語研修システムを導入、実施している。外国人非常勤講師による講演・講義を開催している。 ・実社会の現状・課題等をキャッチアップするため、兼任講師による講義を多く導入している。 ・学習達成度自己評価システムの導入し、委員会による継続的な改善に取り組んでいる。 	3.2③ 3.3⑤⑥ 3.4⑤⑦ 3.6③④ 3.7①

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・従来型の講義を念頭に装備された教室が多く、デザイン工学部特有の演習科目など新しい形態の授業に対応しきれないなど施設上の課題があり、PBL やアクティブラーニングの推進のためにも早急に改善する必要がある。 ・授業時間外の学生の作業スペース確保のため、市ヶ谷田町校舎入り口にディスプレイを用いた空き教室掲示などの工夫を実施し、空き教室の有効活用に努力しているが、なおスペースが足りずに入口ホールなどの空きスペースで学生が作業を行わざるを得ない状況である。 ・スペース及び施設の拡充について大学全体として継続的に検討していく必要がある。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (3.1～3.2)

デザイン工学部では、学部および学科として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件を明示した学位授与方針が設定されている。また、その諸要件を達成するための教育課程の編成・実施方針が設定されている。教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針については、履修の手引きやウェブサイトにて周知公表されている。それらの適切性と連関性の検証も年4回開催させる質保証委員会にて検証されている。

②教育課程・教育内容に関すること (3.3)

学生の能力育成のため、建築学科と都市環境デザイン工学科では、日本技術者教育認定機構(JABEE)により認定された教育プログラムを提供している。システムデザイン学科も含めて適切な教育プログラムを提供していると判断される。

また、学生の能力育成の観点から、学年進行とともに専門性が段階的に充実するカリキュラム体制が作られている。「社会的責任を自覚した実践的な職業倫理を鍛える」という方針が優れており、高く評価できる。

初年次教育・高大接続へのカリキュラムへの配慮が適切に行われ、学生の国際性を涵養するための教育内容が適切に提供されている。特に、システムデザイン学科では、クォーター制を活用した「海外英語研修」がカリキュラムとして提供されている。また、キャリア教育の提供もなされている。

③教育方法に関すること (3.4)

デザイン工学部では、ガイダンスや導入ゼミナールにおいて履修指導が適切に行われている。また、学習達成度自己評価システムの提供や担任教員による面談等、学習指導が適切に行われている。さらに、履修制限や情報ツールの活用により、学習時間だけでなく学習場所確保に関する取り組みも行われている。

各学科の特性に合わせて、フィールドワークや実習、海外英語研修等、効果的な授業形態の導入が取り組まれている。また、いくつかの科目に関しては複数のクラスに分割して少人数授業を実施し、1授業当たりの学生数の配慮がなされている。また、シラバスと授業実施に関する検証も行われている。特に次期授業改善計画の作成という独自の取り組みがなされており、評価できる。

④学習成果・教育改善に関すること (3.5～3.7)

デザイン工学部における成績評価に対する疑義に対する対応等、JABEEプログラム責任者(建築、都市)を中心として成績評価・単位認定の妥当性検証などは適切に行われている。他大学における既修得単位の認定に関しては、運営委員会および教授会で審議して単位を認定している。出席管理システムに関して学科で統一した基準を設け、また、講師懇談会などの場で成績の厳正評価を兼任講師を含む全教員で共通認識とする等、厳正な成績評価のための方策が行われている。学生の就職・進学状況および成績分布・進級などの状況も学科単位で把握されている。学習成果の把握や可視化、定期的な検証、授業改善アンケートの組織的利用等に関しても適切に行われている。

一方で、スペースに関する問題が生じているようであるが、学生の作業スペース確保のためのディスプレイを用いた空き教室掲示の工夫は、スペース有効活用のための非常に優れた取り組みである。

4 学生の受け入れ

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

デザイン工学部は、以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる。

1. 入学後の学修に必要な基礎学力を有している。
2. 高等学校で履修する各科目の内容を理解し、高等学校卒業程度の学力を有している。
3. 学部の教育目標やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを理解している。
4. 言語能力と文化多様性を基盤とした表現力を修得することに積極的である。

大学・学部の教育目標・3つのポリシーに基づき、デザイン工学部の3つの学科では、以下のように教育目標・3つのポリシーを定めている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<建築学科>

建築学科は、以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる。

1. 文理にまたがる学問分野を広く深く学ぶことを通じて自己研鑽に努めたいと考えている。
2. 人々の健康で安心な生活、並びに社会の安全と公正について深い関心がある。
3. 人々の生活環境と社会システムの発展向上のために、建築家、建築技術者として専門的立場から何らかの貢献をした
いと考えている。
4. デザイン力を磨き、コミュニケーション力を深め、建築を含む幅広い分野に対し積極的に関与したいと考えている。
5. いかなる状況が顕現しようと、地球と世界の将来に希望を持ち、そこに自己実現の夢を抱いている。

<都市環境デザイン工学科>

都市環境デザイン工学科は、以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる。

1. 法政大学の歴史・伝統と大学憲章に対して十分な理解を備えている。
2. 地球的視点の下に、自然を愛し人類の幸福に貢献する意欲を備えているとともに、公平・誠実で不偏の態度を保持で
きる。
3. 自然界や社会基盤施設における諸現象を理解・分析するために必要な自然科学の基礎知識と分析能力を習得する意欲
がある。
4. 地球環境の変化ならびにグローバル社会の多様性・地域性を理解し、様々な制約条件下で技術的課題を解決するた
めの思考力・判断力を備える意欲がある。
5. 特定分野に限らず人文・社会科学を含めて広範な科学分野に興味を持ち、それらの知識を習得する意欲がある。
6. 様々な地域社会や個人に対し技術者としての説明責任を果たすだけの潜在的表現能力を有している。

<システムデザイン学科>

システムデザイン学科は、以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる。

1. 法政大学の歴史・伝統と大学憲章への深い理解を備えている
2. 基本的な学力を持っており、勉学の習慣を身につけている
3. 文系的素養も持ち、豊かな感性を備えている
4. デザインだけでなく、工学的視点から客観的に物事を判断・評価することに関心がある
5. 創造性豊かで、公正な価値観を持っている
6. 人間をデザインの中心に据えた「もの・システム」づくりに興味があり、それらの知識を習得する意欲がある

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

4.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

入学者数の算定に経験豊富な入学センターのアドバイスに基づいて一般入試の合格者のボーダーラインを定めている。ここ数年間は適切な範囲内の定員充足率を維持していたが、2018年度は建築学科及びシステムデザイン学科で入学者が超過した。今後も、入学センターと協力して、適正な入学者数となるように努める。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

定員充足率 (2013～2017年度)

(各年度5月1日現在)

種別\年度	2013	2014	2015	2016	2017	5年平均
入学定員	292名	292名	292名	292名	292名	
入学者数	300名	320名	283名	328名	317名	
入学定員充足率	1.03	1.10	0.97	1.12	1.09	1.06
収容定員	1,132名	1,144名	1,156名	1,168名	1,168名	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

在籍学生数	1,279名	1,267名	1,252名	1,279名	1,290名	
収容定員充足率	1.13	1.11	1.08	1.10	1.10	1.10

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
- ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】※医学・歯学分野は省略

提言	努力課題	改善勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20以上	1.25以上
上記以外の分野	1.25以上	1.30以上

【定員未充足の場合】

提言	努力課題	改善勧告
すべての分野共通	0.9未満	0.8未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018～
入学定員超過率	1.20以上	1.17以上	1.14以上	1.10以上
収容定員超過率	1.40以上	1.40以上	1.40以上	1.40以上

4.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

- ・全学方針に基づき、様々な方式による入学試験を実施し、多種多彩な学生の確保に努力している。
- ・比較的入学定員の多い指定校推薦入試に関しては、過去の入学実績と学生就学状況の追跡調査に基づいて毎年指定校の入学推薦基準を見直し、入試方策の適正化を継続的に図っている。
- ・新入生対象のプレースメントテストと TOEFL-ITP レベル2により入試方式と入学時学力との相関性を調査・分析し、入試システムの改善・向上を図っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・プレースメントテスト成績結果
- ・TOEFL-ITP レベル2の成績結果

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・建築学科およびシステムデザイン学科の2018年度入学者数が定員を約1割超過した。次年度以降の入学者数適正化が課題である。	

【この基準の大学評価】

デザイン工学部では、求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針が設定されている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

5 教員・教員組織

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【求める教員像および教員組織の編制方針】(2011年度自己点検・評価報告書より)

デザイン工学部の教員には、学部の理念である「総合デザイン」の理解を前提に、学部や学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえ、教育目標に向けた高い相互理解力を保有していることが求められる。また横断的な知識の融合による多面的な観点から物事を検討し、理解できる学生の育成と支援が求められる。

このような学部としての教員像を踏まえたうえで、各学科では以下のような方針の下、教員組織の編制を行なっている。

建築学科では、学習・教育目標の達成に向け、5つの専門分野から構成される教員組織、すなわち、①建築デザイン、②建築・都市史、③建築環境、④建築構造、⑤建築構法・施工の各分野に専任教員を配置し、それぞれが先端的な研究能力を有すると同時に、相互の分野を横断的に解釈・実行できる教員を求めている。

都市環境デザイン工学科では、学習プログラムに示される目標を適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげうる能力をもった教員と教育支援体制を求めている。教員の構成は、3つの系と呼ぶ専門分野、すなわち、①都市プランニング系、②環境システム系、③施設デザイン系それぞれに教育目標に応じて適切に専任教員を配置するとともに、助教や経験豊かな任期付き教員などを含めて多彩な教員組織を構成していく。また、専任教員は研究とともに、教育さらには学校運営事務の能力をバランスよく備えていることを求めている。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

- ・「デザイン工学部教員適格審査内規(D工規定006号)」
- ・「デザイン工学部教授・准教授および専任講師資格内規(D工規定008号)」

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※簡条書きで記入。

- ・学部執行部を学部長・教授会主任・教授会副主任により構成。
- ・デザイン工学部「運営委員会」を執行部と各学科主任により構成し、学部内の役割分担と責任の所在を随時点検・修正しながら所掌・責任体制を明確にしている。
- ・各学科では、学科主任が主催する「教室会議」を専任教員により構成し、授業運営・教育改善・学務・広報などに関わる役割分担や責任の所在を常に明確にした上、改善すべき点を随時議論し教育の質向上を継続的に図っている。

【明示方法】※簡条書きで記入。

・

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

<学部共通>

- ・「法政大学デザイン工学部運営委員会規程」(D工規程002号)

<建築学科>

- ・教室会議議事録

<都市環境デザイン工学科>

- ・教室会議ならびに拡大教室会議議事録
- ・教室会議規定
- ・教室会議組織申し合わせ

<システムデザイン学科>

- ・教室会議議事録

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部(学科)のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(~400字程度まで)※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

- ・各学科とも、複数の専門系により教育分野全域を偏りなく網羅しており、基礎科目から卒業研究に至るまでの系統だった系別履修モデルで明示されるように、カリキュラムに対応して適材適所に教員を配備している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

- ・学部のミッションである「総合デザイン」に基づき、専任教員は各分野において先端的研究能力を有すると同時に、分野横断的にカリキュラムを把握できる人材としている。これら専任教員を各系に原則複数配置して系相互のつながりを強化している。
- ・専任教員は兼任講師の教育パートナーとして業務上の課題解決に対して協働するとともに、年1回以上の講師懇談会を開催するなど、教育目標の達成に向けて全専任・兼任教員が一体的に教育を進めている。また、各学科分野に精通した教育技術員を配置し、実習教育を支援する仕組みとしている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き
- ・講師懇談会の配布資料・議事録

②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。

はい いいえ

(～400字程度まで) ※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

- ・学部教育での専門区分が大学院での専門分野に展開されており、学部担当全教員が大学院教育も担当することで、学部生への卒業研究指導を修士・博士研究の指導と一体的に進めている。大学院進学希望の学生は大学院科目の先取り履修が可能であり、早期に大学院教育に接する機会を提供している。
- ・建築学科では『アーキテクトマインドについて学ぶ』を学部と大学院に共通する教育理念・目的としている。都市環境デザイン工学科では1年時の導入ゼミナールおよび3年次のゼミナールでのキャリア・ガイダンスの中に大学院への進学指導を含めている。システムデザイン学科では、3年生春学期からゼミナール1を開始し、早期に基礎的知識を深めた上で、4年次に卒業研究・卒業制作を行っている。これにより、学生は大学院における教育の方向性について早い段階から把握している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

<学部共通>

- ・学部担当表および大学院担当表
- ・デザイン工学部生のための履修の手引き
- ・Web シラバス

<建築学科>

『アーキテクトマインドとは何か?』

<都市環境デザイン工学科>

- ・「ゼミナール（都市）」授業資料
- ・「導入ゼミナール（都市）」授業資料

<システムデザイン学科>

- ・教室会議議事録

2017年度専任教員数一覧

(2017年5月1日現在)

学部(学科)	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教員数	うち教授数
デザイン工	30	1	2	0	33	26	13

専任教員1人あたりの学生数(2017年5月1日現在): 39.1人

③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】(～200字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

現状では50～60歳代の教員比率が高く、教員年齢構成の適正化を教授会での合意事項として目指しており、若手教員の新規採用を鋭意進めている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「デザイン工学部・若手採用人事」に関する申し合わせ(D工申し合わせ)
- ・教員年齢構成表

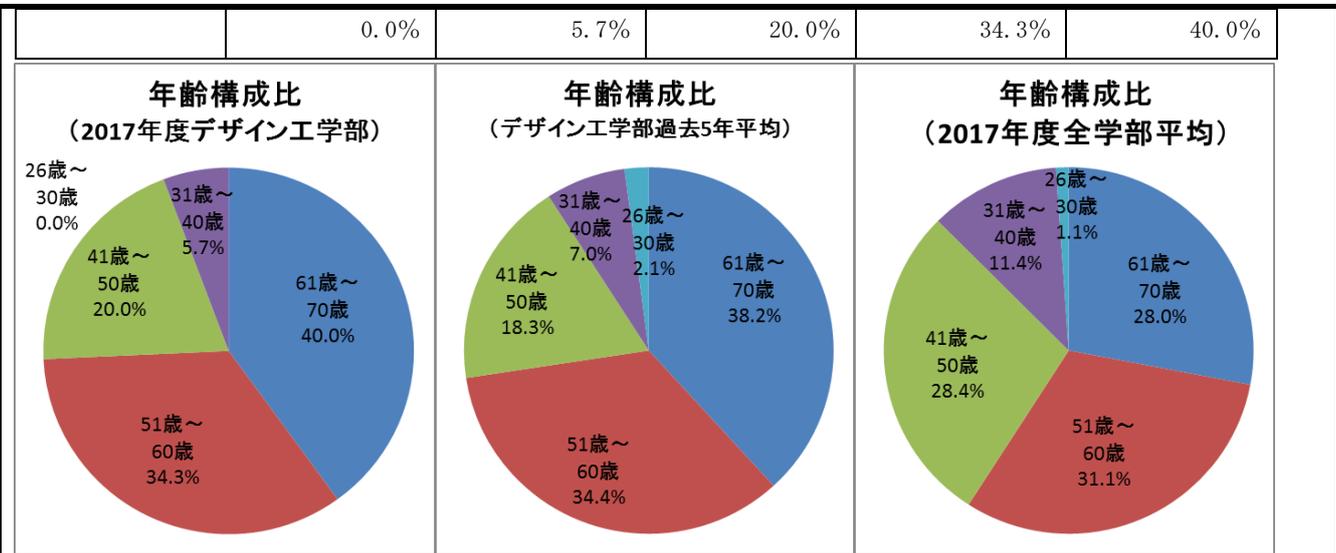
年齢構成一覧

(2017年5月1日現在)

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2017	0人	2人	7人	12人	14人

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。



5.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①各種規程は整備されていますか。 はい いいえ

【根拠資料】 ※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を簡条書きで記入。

- ・「デザイン工学部教員適格審査内規 (D工規定 006号)」
- ・「デザイン工学部教授・准教授および専任講師資格内規 (D工規定 008号)」
- ・「デザイン工学部人事委員会構成・運営細則 (D工規定 007号)」

②規程の運用は適切に行われていますか。 はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】 ※簡条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等(非公開)を添付することでも可。

- ・推薦あるいは公募により各学科が教員の採用候補者あるいは昇格人事対象者を教授会に提案。
- ・その後、教授会において人事委員会付託の是非を決定。
- ・人事委員会での審議の結果が教授会で報告され、教授会において審議されたのち、投票により採用・昇任の是非を決定。

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部(学科)内のFD活動は適切に行なわれていますか。 S A B

【FD活動を行うための体制】 ※簡条書きで記入。

- <学部共通>
- ・毎年度末に講師懇談会を開催し、兼任教員と教育技術嘱託を交え教育内容・方法等の改善を検討
 - ・学生による授業評価アンケートの実施
- <建築学科>
- ・JABEE(日本技術者教育認定機構)研修会への代表教員の参加と研修報告
- <都市環境デザイン工学科>
- ・JABEE(日本技術者教育認定機構)研修会への代表教員の参加と研修報告
 - ・学内外で実施されるFD推進活動への参加と日常実践ならびにFD活動報告書の提出
 - ・授業のビデオ画像の自己点検と相互視聴、「学生による授業評価アンケート」結果および「採点評価」結果に基づく「次期授業改善計画」の策定とその実現など、授業改善を継続的に図る仕組み・制度の整備
- <システムデザイン学科>
- ・教室会議において、授業の実施状況や内容、スケジュール管理、課題等に関して議論

【2017年度のFD活動の実績(開催日、場所、テーマ、内容(概要)、参加人数等)】 ※簡条書きで記入。

- <建築学科>
- 1) JABEE 審査員研修会 7/29(土) 建築会館
 - 2) JABEE 建築分野受審・審査セミナー 8/10(木) 建築会館
 - ・ JABEE の動向
 - ・ 企業の JABEE 参加のメリット
 - ・ エンジニアリング系学士の受審・審査における注意点
 - ・ 建築系学士修士の受審・審査における注意点

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

- ・国際認定の現状
- ・エンジニアリング学士受審校からの話題提供
- ・建築系学士修士受審校からの話題提供

<都市環境デザイン工学科>

- ・授業のビデオ撮影（春夏・秋冬学期中の各1回、専任教員が担当する専門科目の講義・実習・演習・実験の一部）
- ・次期授業改善計画の作成（毎学期・全科目）
- ・法政大学第20回大学評価室セミナー「学位授与の説明責任としての学生の学習成果の把握とアセスメント～ICE ルーブリックと卒業ポートフォリオの活用～」、2017年4月27日、市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー、専任教員1名
- ・JABEE 受審校研修会、2017年5月13日、土木学会講堂、専任教員1名
- ・日建連主催講演会「シビルエンジニア（土木技術者）の仕事」、2017年11月23日、小金井キャンパス、専任教員1名
- ・法政大学第21回大学評価室セミナー「第3期認証評価に向けた学部・研究科での取り組み、2018年1月25日、市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー、専任教員1名
- ・参考図書を用いたアクティブラーニング、グループワーク、情報システムの研究、2017年9月4～8日および11月19日、田町校舎、専任教員2名

<システムデザイン学科>

- ・授業打合せ会（2018年3月7日、市ヶ谷田町校舎、授業実施状況や改善点の共有等、39名）

【**根拠資料**】※ない場合は「特になし」と記入。

<建築学科>

- ・教室会議議事録

<都市環境デザイン工学科>

- ・教室会議議事録
- ・拡大教室会議の配布資料・議事録（FD活動報告書、WG活動報告を収録）
- ・各授業担当者が作成した授業改善計画書（次期授業改善計画を収録）

<システムデザイン学科>

- ・教室会議議事録

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・教員年齢構成適正化の推進。 ・学部専門教育と連携した基盤教育に対する専任教員数の不足。 	

【この基準の大学評価】

デザイン工学部の運営委員会と各学科の教室会議にて役割分担や責任の所在が明確にされている。また、年齢構成に関する是正が求められるものの、教員組織は適切に編制されている。大学院教育との連携に関しては、進学者数を踏まえて、取り組みに対する効果の検証をお願いしたい。

また、教員の採用に際しては、公募を基本に行われている。その後の教員の昇格等のプロセスに関しては適切になされている。FD活動に関しては、自己点検の内容を見る限りでは、JABEEの認定を受けている建築学科と都市環境デザイン学科の取り組みと比較すると、システムデザイン学科の取り組みが少ないように見受けられる。

6 学生支援

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会、教授会、各学科教室会議において、卒業、卒業保留、退学状況の報告を行い、休学者や退学者については、その理由や状況について情報を共有している。 ・各学科教室会議において、年度末には全ての履修状況データを把握し情報共有を図っている。 ・退学希望者には学科主任または指導教員が面談を行い退学理由の把握を行うとともに大学への要望等の把握を行っている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p><学部共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会資料 ・デザイン工学部教授会資料 <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録 <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録 <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録 	
②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400 字程度まで) ※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。</p> <p><学部共通></p> <p>全教員がオフィスアワーを設定し、学生が相談に訪れやすい環境を整備している。</p> <p><建築学科></p> <p>学習達成度自己評価システムを構築・提供し、学生自身が学期ごとに自己確認できるようにしている。春学期・秋学期終了時には成績不振者や留級・留年者の状況を把握し、ゼミ所属学生の場合は指導教員が、それ以外の学生には学科主任が個別面談を行い学習指導を行っている。</p> <p><都市環境デザイン工学科></p> <p>学習達成度自己評価システムを利用した学習達成度の確認作業によって学生自らが学修実績を振り返るとともに、学生からの報告に基づいて各学生の担任教員は達成度や学習効果を把握・確認している。春学期・秋学期終了時に成績不振者や留級・留年者の状況を教室会議で確認し、担任教員が個別面談により学習指導を行っている。また、外国語科目（英語）および物理系科目では習熟度別クラス編成を実施している。</p> <p><システムデザイン学科></p> <p>学習達成度自己評価システムを導入し、学生が自ら「目標設定」「振り返り」「達成度評価」を行うことを支援・促進している。また、各種コンペティションに関する個別相談や、成績不振者を対象とした個別面談を実施している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部生のための履修の手引き ・IAE サーバー「CARESS」（履修支援システム）の利用案内 ・「履修計画立案・達成度評価システム」の URL（デ工学習支援システム移行に伴い閉鎖予定） 	
③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【成績不振学生への対応体制および対応内容】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取得単位数や GPA の値がある一定水準以下の学生、ならびに学期末に留級した学生に対して、教室会議で対応を協議し、進級・卒業に支障が生じることがないように、学科主任あるいは担当指導教員が適宜面談指導を実施している。 ・必要に応じて保証人との面談を実施する。 	
<p>【2017 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録 <p><都市環境デザイン工学科></p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録 <システムデザイン学科>	
<ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録 	
④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400字程度まで）※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・初年度の導入ゼミナールを通じた導入教育。 ・学部共通の基盤科目として留学生科目（一般数学、日本文化論、日本語等）を設けて外国人留学生の修学支援を実施。 ・学内チューター制度の活用による修学支援の他、TA（特に外国人留学生）による相談体制の整備。 ・全教員がオフィスアワーを設定し外国人留学生の個別相談に対応。 	
【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・新入生向け導入教育についてWGを設置して議論した。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部生のための履修の手引き 	
⑤学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400字程度まで）※学生の生活相談に関する取り組み概要を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・教授会において学生相談室講師による研修を実施した。 ・担任制の導入による相談体制の構築を行っている。 ・オフィスアワーを設定し、学生が相談しやすい環境を整備している。 ・運営委員会、教授会、各学科教室会議において、卒業、卒業保留、退学状況の報告を行い、休学者や退学者については、その理由や状況について情報を共有している。 	
【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・教授会において学生相談室講師による研修を実施した。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・第93回教授会議事 ・第94回教授会議事録 ・教室会議議事録 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワーを設定し、学生が相談しやすい環境を整備している。 ・成績不振者への面談等によるきめ細やかな指導を行っている。 ・運営委員会、教授会、各学科教室会議において、卒業、卒業保留、退学状況の報告を行い、休学者や退学者については、その理由や状況について情報を共有している。 	6.1①②⑤

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・学習障害のある学生が入学しているが、成績評価の厳正化に伴い単位取得、卒業が難しくなっている。 	

【この基準の大学評価】

デザイン工学部の全専任教員がオフィスアワーの設定や担任制の導入によって、個別面談の機会を設けるなど学生の修学支援や成績不振学生への対応が適切に行われている。また、外国人留学生に対する修学支援も行われている。

退学希望者に対して学科主任または指導教員が面談を行い、大学への要望等の把握を行う取り組みは優れていると評価できる。

7 教育研究等環境

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。	
①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400 字程度まで) ※教育支援体制の概要を記入。 <デザイン工学部> ・教育技術嘱託、ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA) などの技術スタッフについては、その役割を明確している。TA、RA については、事務と連携をとり、年度の初めにガイダンスを実施し、適切に配置している。 ・TA が自分の経験を元に、その授業内容に適した身近なアドバイス (参考図書や資料の選び方、自ら行動を起こしやすい具体例) を行い、気付きを促すためのミニレクチャーを行っている。 【2017 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 教員及び教育技術嘱託で構成される「造形制作室運営委員会」を設置し、限られた教育・研究スペースの有効活用を図るために活動している。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> TA が自分の経験を元に、その授業内容に適した身近なアドバイス (参考図書や資料の選び方、自ら行動を起こしやすい具体例) を行い、気付きを促すためのミニレクチャーを行っている。 教員及び教育技術嘱託で構成される「造形制作室運営委員会」を設置し、限られた教育・研究スペースの有効活用を図るために活動している。 	7.1①

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

デザイン工学部における TA による授業内容に係わるアドバイスの実施等の取り組みは興味深い。また、教育技術嘱託は造形製作に関わる業務に従事し、教育研究支援に貢献しているように思われる。
--

8 社会連携・社会貢献

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。	
①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っているか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。 <デザイン工学部> ・当学部の教員が主体となって活動している「エコ地域デザイン研究所」及び「江戸東京研究センター」と協力して、公開講座などを実施している。また、多くの教員が学会などに協力して、シンポジウムなどの講師を務めている。 <建築学科> ・公開講座を実施している。 ・例年 5 月下旬の土曜日に、学科同窓会と連携して、専任教員全員、1 年生全員、その他の学年の学生有志、卒業生が、「ウォークラリー」と称する街歩きを行っている。「ウォークラリー」では、特徴ある建築や街の姿に触れることにより、学習の動機付けを図っている。 <都市環境デザイン工学科>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

・卒業生対象ではあるが、教員及び学外有識者の教育研究成果に基づく社会工学セミナーを実施している。
 ・学外組織と共同研究、受託・寄付研究等を行うことにより教育研究の推進を図るとともに社会への研究成果の還元を行っている。

<システムデザイン学科>

・公開講演会を実施している。
 ・学外組織との共同研究・受託研究・寄付研究等を行うことにより、産官学連携による教育研究の推進を行っている。また積極的に学外コンペ等に作品や成果を応募するようにしている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

<デザイン工学部>

・「エコ地域デザイン研究所」パンフレット

<建築学科>

・「国際ワークショップ」のポスター
 ・「ウォークラリー」ポスター

<都市環境デザイン工学科>

・「社会工学セミナー」パンフレット
 ・研究開発センター「研究実績・採択実績」のURL
 ・「外濠市民塾」パンフレット

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

デザイン工学部では、公開講座やシンポジウム、学外コンペ等にて、社会貢献が行われている。「2019年度デザイン工学部GUIDE BOOK」には、実社会で採用された建築物やデザインが示されており、これらの社会貢献の寄与が大きいのではないかと感じられる。これらが法政大学の社会貢献の産物であることを広く社会に伝えていただきたい。共同研究、受託・寄付研究による社会への研究成果還元もなされている。

9 大学運営・財務

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

①学部長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
--	---

(～200字程度まで) ※概要を記入。

<デザイン工学部>

・学部執行部は、学部長、主任、副主任から構成されており、その役割分担を明確にしている。学部の運営は運営委員会（執行部＋各学科主任）と教授会を中心に行っている。それらの運営は「法政大学デザイン工学部教授会規定内規」および「法政大学デザイン工学部運営委員会規定」に従って行っている。
 ・2018年度より、運営委員会で審議し教授会に報告する事項と、教授会で時間をかけて審議する事項を選別し、重点化を図っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・「法政大学デザイン工学部教授会規程内規」(D工規程 001号)
 ・「法政大学デザイン工学部運営委員会規程」(D工規程 002号)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・2018年度より、運営委員会で審議し教授会に報告する事項と、教授会で時間をかけて審議する事項を選別し、重点化を図っている。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

デザイン工学部では、学部執行部と運営委員会と教授会において、規程や内規に従った運営がなされている。

III 2018年度中期・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	1) カリキュラムポリシーの見直しを行い、開講科目の体系を再構築する 2) 高学年における英語教育のあり方について検討する
	年度目標	1) 基盤教育のあり方を再検討し、基盤科目の見直しを行う 2) サマーセッションやオースタムセッションを利用した海外英語研修の実施方法を検討する
	達成指標	検討結果をまとめた報告書の作成
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	1) 効果的な実習のための造形製作室の再整備を検討する 2) 自動集計システム「授業支援ボックス」と授業支援システムを活用した授業方法の検討
	年度目標	1) 造形製作室の活用方法を検討し、本年度の特別事業（備品等購入）で優先的に予算確保を行い造形製作室の再整備を実施する 2) 2、3科目で「授業支援ボックス」を利用し、その活用方法を検討する
	達成指標	造形製作室の利用方法の明文化と設備の導入 「授業支援ボックス」の利用結果の報告
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	稼働中の学習達成度評価システムの見直しを行い、より使いやすいシステムの再構築
	年度目標	本システムに関わる委員会において、新システムの構想を検討する
	達成指標	新システムの仕様に関する報告書の作成
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	多様な入試経路で受け入れた学生の学びに対する実態を把握し、入試経路の妥当性を検証する
	年度目標	より効果的な学習支援を行うため、多様な入試経路の学生に対する、入学前教育やプレイスメントテストなどを見直し、入学学生の学びに対する実態把握方法を検討する
	達成指標	入学前後の学びに対する実態把握方法に関する報告書の作成
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	基盤教育の新しいあり方に沿った専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行
	年度目標	専門を担当する専任教員の基盤教育科目の関わりについて検討する
	達成指標	専門教員の基盤科目担当実態調査と新担当に関する報告書の作成
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学習達成度評価システムと併せて、リプレイスを前提とした学生カルテ、履修計画支援システムの見直しを行い、より使いやすく、フィードバック可能なシステムの検討
	年度目標	本システムに関わる委員会において、新システムの構想を検討する
	達成指標	新システムの仕様に関する報告書の作成
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	オープンキャンパス時に実施しているデザインスクールなどの公開講座を見直し、受験生だけでな

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	く、社会貢献を意識した一般人を対象とする講座への展開を検討する
年度目標	デザインスクールの内容を受験生に限定しないものに変更可能か、本年度のデザインスクールを通して検討する
達成指標	本年度のデザインスクールの結果をもとに報告書を作成
<p>【重点目標】</p> <p>カリキュラムポリシーの見直しを行い、開講科目の体系を再構築するなかで、基盤教育のあり方を再検討し、基盤科目の見直しを行うことが最も重要な目標と位置付けている。各学科から2名の委員と執行部、事務担当で基盤教育検討委員会を設置し、本年度から活動を開始している。</p>	

【2018年度中期・年度目標の大学評価】

教育課程・学習成果に関しては、基盤教育と英語教育に関する検討がなされているが、活用できる人材とインフラによって検討できる範囲が変わるものと思われる。造形製作に関しては、デザイン工学部の特色であるため、再整備に期待したい。また、独自の取り組みと思われる「学習達成度評価システム」に関しては、現行システムの効果を検証して、新システムの構築につなげていくことを期待したい。

学生の受け入れに関しては、全学的に共通の課題が記載されている。本学部では、受け入れた学生に対する支援体制については多くの検討がなされている様子である。よって、次の段階としては、学生の受け入れに関しても報告書作成後に実効的な取り組みがなされることに期待したい。

教員・教員組織に関して、基盤教育科目の充実を図るためには、専門を担当する専任教員の協力が必要であり、「専門を担当する専任教員の基盤教育科目の関わり」については十分な議論を踏まえて、積極的な取り組みを行っていくことを期待したい。

社会貢献・社会連携に関して、受験生だけでなく、保護者世代も対象としたデザインスクールの取り組みへと発展させていくことが望ましいと思われる。

【大学評価総評】

デザイン工学部では、教育内容に関することを中心として、ほぼすべての項目に関して十分な取り組みがなされており、高く評価できる。また、「基盤教育のあり方」や「基盤科目の見直し」といった多様な学生の受け入れに対する取り組みを行っている点も高く評価できる。ただし、限られた人材とインフラで最大限の成果を挙げるという難しい問題に直面することが予想される。しかし、教員・教員組織の評価に関しては、自己点検の内容からは、建築学科と都市環境デザイン工学科の取り組みと比較すると、システムデザイン学科のFD活動の取り組みに関する具体的な記載がやや少ないように見受けられる。記載内容の充実に期待したい。一方、システムデザイン学科ではクォーター制を活用した海外英語研修が行われており、高く評価できる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。